

CONTENTS

- 大学・法律特別コース 導入1年、高い評価(3面)
- 卒業研究紹介(4面)
- 平成16年度入試を振り返って(7面)

◆ 独白 ◆
 大阪国際学園 理事長 奥田吾朗

「コミュニケーション」の重要性
 これからの学校運営にあたっては、これまで以上に、意志の疎通と正確な情報発信に、学内すべての部面で「コミュニケーション」に対する配慮が必要となろう。では、「コミュニケーション」においてリーダーとして心がけねばならないことは何か。

この点、わたしは、次の二点に要約できるものと考えている。まず第一には、「相手に意思を伝え、理解してもらうこと」である。何かを伝えることは、理解が伴うものでなければならぬ。すなわち、単なる指示や報告というものは、「コミュニケーション」にはあたらないのである。そこでは指示事項や報告事項を互いに納得することが必要となる。

第二には、「相手に何かを要求すること」である。この要求事項が、相手の価値観や期待、信念などと合致したとき、その相手のモチベーションが上がり、協力を得られるのである。そのためには、伝達側は、まず相手をしっかり理解しなければならぬ。その後、いずれの学校法人においても、ますます難しい舵取りを迫られる機会が増えていくであろう。そのような状況にあって、妥当性の高い意思決定を行うためにも、わたし自身、ここに示した「コミュニケーション」の意味をあらためて肝に銘じておきたい。

GLOBAL MIND

グローバルマインド

発行/(学)大阪国際学園広報室
 〒570-8555 守口市藤田町6-21-57
 ☎06(6902)0787(代) FAX06(6902)8961
 Eメール:koho@oiu.ac.jp
 http://www.globalmind.jp/

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

大阪国際大学(OIU) 校方キャンパス072(858)1616(代) 守口キャンパス06(6902)0791(代)	大阪国際滝井高等学校(OIITH) 06(6996)5691(代)
大阪国際女子大学(OIUW) 06(6902)0791(代)	大阪国際大和田高等学校(OIOH)・中学校(OIOJ) 06(6904)1118(代)
大阪国際大学短期大学部(OIC) 06(6902)0791(代)	大阪国際大和田幼稚園(OIOK) 06(6902)7329(代)

大阪国際大学主催 国際セミナー 「共生の21世紀—アジアと日本」

5月～6月の2週間、大阪・東京で開催
 アジア提携大学から若手研究者・院生が参加
 梅原 猛・野中広務両氏が基調講演(5月24日)

「国際」の名を冠し、GLOBAL MINDを教学理念とする大阪国際大学。アジアを中心に海外31大学とさまざまな交流の協定を結び、一般留学生のほか多くの交換留学生が学んでいる。そこでアジアと共生していく日本をアジアの提携校の大学院生ら将来のオピニオン・リーダーたる若者たちを対象に、本学と中国・瀋陽の提携校である東北大学と共催して国際セミナーを5・6月の2週間、大阪と東京で開催する。テーマは「共生の21世紀 アジアと日本」。東北大学からは張 雷文法学院院長(博士)を団長に大学院生、若手教員ら15名が参加するほか、韓国・環園大学校、中国・遼寧師範大学、ベトナム・ホンバン大学からも参加、また台湾や香港からの交換留学生ら学生もあわせ総勢30余名のほか本学学生や若手教員らも参加する。

セミナーは政治、経済、教育、メディア、文化分野にまたがり、いずれもわが国を代表する講師を招く。とりわけセミナー開幕の5月24日、哲学者の梅原 猛氏と元自民党幹事長の野中広務氏が基調講演。東京ではNHK会長の海老沢勝二氏や元官房副長官の古川貞二郎氏ら多彩な顔ぶれによる講義となる。

セミナーを通じ幅広く、そして深く日本を学び、理解した受講者たちによる討論会を開く。これら受講者の中から知日家・親日家が多く育ち、やがて将来の日本とアジア各国の友好・協力の促進に重要な役割を担うことを期待したい。



梅原 猛氏



野中広務氏

日付	午前	午後	場所
5月24日(月)		基調講演(一般公開) 梅原 猛氏(哲学者) 野中広務氏(元自由民主党幹事長)	IMPホール(850人) (同時通訳)
25日(火)	松下 滋氏 (UFJ総研首席エコノミスト)	堀 要(国際大教授) (公共政策、地域開発)	本学校方キャンパス
26日(水)	橋本 守氏 (元丸紅副会長、元関経連副会長)	川又良也 (国際大教授)(法体系)	同上
27日(木)	山下和彦氏 (大阪国際会議場社長、元電通副社長)	柴橋正昭 (国際大教授)(国際会計)	同上
28日(金)	森津 誠(国際大教授)(交通心理学) 平田まり(国際大教授)(労働衛生)	裏千家見学 筒井紘一氏 (京都学園大教授)	午前: 本学守口キャンパス 午後:京都見学
31日(月)	NHK見学	海老沢勝二氏(NHK会長)	東京 NHK
6月1日(火)	都内行政機関等見学	田村哲夫氏(中教審委員)	東京 九段会館
2日(水)	古川貞二郎氏(元官房副長官)	都内行政機関等見学	東京 九段会館
3日(木)	十市 勉氏 (日本エネルギー経済研究所常務理事)	前田哲男氏<東京国際大教授 (軍事問題)> 高橋 紘氏<静岡福祉大教授(皇室問題)>	東京 九段会館
4日(金)	討論会		本学守口キャンパス

大学・短大の海外協定校31校に 中・高も積極的交流展開

国際大は、平成16年に入り、2月9日に韓国・環園大学校、2月10日にカンボジア大学、3月19日にトルコ・エルジュス大学と、相次いで交流協定を締結。これにより、大学・短大の海外協定校は31校となった。また、海外からの留学生は、今年度は両キャンパスあわせて400人以上が在学し、これは全学生数の約8%に及ぶ。

滝井高校では、従来の海外研修に加え、14年度設置の国際科第1期生のうち7名がオーストラリアの高校へ半年～1年間にわたって長期留学した。

大和田中・高校では中学・高校時代で海外経験ができる制度が定着。中学での海外研修では草分け的存在で、卒業後全員が海外研修旅行へ。大和田高校生も2年時に全員が海外研修に参加する。また年間50人以上の生徒が海外協定校から訪れている。

奥田政三教育・研究基金をはじめとする各種奨学金による留学・海外研修では、15年度は学園全体で100人近くが各国へ派遣された。これらの国際交流の活発化は、学生・生徒たちに豊かな経験をもたらし、確実に成果をあげている。



イスラム圏では初の協定校となるトルコのエルジュス大学。所在地であるカイセリは、13世紀に繁栄したセルジウクトルコ首都であった都市で、周囲に遺跡が多く残る。

国内留学協定校新たに増える 東京国際大学の2校 地域文化の理解めざして

国内の大学との協定提携校として新たに2大学が増えた。新協定校は、東京国際大学(学長 荒井孝昌、埼玉県川越市)と札幌国際大学(学長 神尾和正、北海道札幌市)。東京国際大学とは平成15年12月9日同大学にて、札幌国際大学とは16年3月23日、本学守口キャンパスにて「国内留学制度に関する協定」に調印した。国内外との提携が拡大する一方、国内大との新たな協定により、学生たちに国内外ともに視野の広がりや交流の場を提供することに。この結果、平成9年3月の提携校、名桜大学(沖縄県名護市)に続き国内留学ができる大学は3大学となり、北は北海道南



東京国際大学との調印の様子。握手をかわす東京国際大学荒井孝昌学長(右)と本学金子敦郎学長



札幌国際大学キャンパス

沖縄、さらには首都圏の東京とそれぞれ気候風土、歴史や文化の異なる地域で勉学は勿論のこと、学生交流、異文化体験など幅広く充実した学生生活が期待できることになった。

国内留学制度は、協定大学の学生に対し、各大学が相互に科目の履修や活動を保証し、学生間の連携を密にしておくことを目的としているが、留学の在学期間は半年または1年で年間5人まで。受け入れ学年は第2学年年または第3学年。履修登録できる単位数の上限は、半期で20単位、1年で40単位以内となり、授業料は相殺。

東京国際大学は、開設昭和40年。商学部・経済学部・国際関係学部・人間社会学部言語コミュニケーション学部の5学部を有し、海外8カ国10大学と交換留学協定を結んでいる。

札幌国際大学は、平成11年の開設。観光学部・人文学部・社会学部と4学科の短期大学部を持っている。

同制度の第一歩を切り開いた名桜大学(沖縄県名護市)へは、本学よりこれまで3人の学生が留学し、今年度、同大学から2名の学生が留学し守口キャンパスで学んでいる。各大学とも国内留学の動きは活発だが、本学も大学・短大共に海外交流にとどまらず学生生活の充実と視野の広がりを求め全国の大学との協力関係の枠拡大に努める方針。

卒業研究の集大成発表

大学院と大学各学部生

大学生活の集大成とも言える卒業研究が15年度も大学院各研究科、大学各学部学科で提出された。両キャンパスで発表会が行われ、この日のために準備を重ねてきた学生らは、映像を駆使しながら堂々と成果を発表した。数多い力作の中から一部を紹介する。

大学院経営情報学研究所

修士課程 蘭 嵐
(指導教員 植松康祐)

「Studies on the Optimization of Private Investment in Education - The Model of Japan -」



中国・瀋陽からの留学生である蘭 嵐さんは、教育

における経済学の中での人的資本論に関する研究を行った。過去の先行研究は、個人の単純な投資に対するリターンだけを議論したものや、データを用いていても、そのデータは全国平均などのマクロ的な分析モデルであった。

また、ほとんどが教育を受ける者のみを対象としたモデルであったのに対し、蘭さんの研究では、日本における教育の投資者である親とリターンを得る子供を合わせたモデルを提案した。厚生労働省と文部科学省からの詳細なデータを基に、日本の教育事情に適合する数学モデルを構築。数学的なモデルの価値として、学歴別の階層別生涯年収データを基に、連続関数として近似することにより、微積分による解析にも耐えうるモデルを提案した点である。

経済学を背景にしたモデルを経営科学の最適化の原理に基づき、ExcelによるVBAをツールとして問題の解析を行っており、問題の捉え方、及び分析手法にもオリジナリティがあり、またこの分析結果は、今後の大学教育のあり方に一石を投じるもの。「日本の大学教育のあり方に疑問を抱き、そして、日本の大学の今後の戦略に関して議論を

(敬称略)

「OECDなどのデータを見て日本は個人的データの開示がなされていない。即ち教育によって職業などの機会が平等に与えられているという神話が未だにあると考えます。」と問題提起

卒業後は、国際大の博士課程に進む。
経営情報学部経営情報学科 川西雅章、北野耕司、杉本幸広
(指導教員 中井哲夫)

「初級システム取得支援ツール」模擬テスト用ソフトウェアの開発」

初級システムアドミニストレータ試験対策の勉強のために市販の模擬テスト用ソフトを使ったところ、様々な問題点を見つけた。ならば、自分で作り開発してみようということになり、カテゴリーごとの完全ランダム出題、出題問題の管理、個人情報による弱点克服機能の3点の課題を解決し、既存ソフトと比較して、より充実した機能をもったソフトの開発に成功した。



左から杉本さん、川西さん、北野さん

「現在、定義したシステムの改良は思い通りに動いていませんが、まだ実行するには至り、今後、後輩による改良を期待し、私自身も携わって行きたい」という代表の杉本さんは卒業後コンピュータ会社へ、「今回の研

究で体験したことを活かして、さらに自己スキルをあげていきたい」と語る。

北野さんも同じくコンピュータ業界へ、川西さんは、国際大学院へ進学、情報関連の研究を続ける。

山本 尚
(指導教員 高田 敏)

「市町村合併について」平成の市町村合併の問題(京都府を中心に考える)



政経学部が名称変更してからの期生

となる山本さんは、地方制度大変動の時代にあつて、活発化している市町村合併問題を取り上げた。従来より市町村という基礎的な自治体の重要性が増しており、合併によって力をつけていこうとする動きがある。それを単に肯定的ではなく、分析し批判的にも捉え、自身の地元・京都を例に実地にそくした論文となっている。

山本さんは「この問題を取り上げたのは、私がかつてもまちづくりが好きだからです。合併することでのどのような効果を生み出すのかということがわかりました。そして、市町村が持っている風土・自然・歴史・環境など昔から伝わってきたものが、平成の大合併によってなくなってしまうことは非常に残念ではないかと思われる」と述べると同時に、国が一方的に合併を押し進めることに危惧を抱き、地方自治の将来を懸念する。

卒業後は、国際大学院総合社会科学研究科に進学し、さらに研究を深めていく。
社会コミュニケーション学科 劉 颯
(木曾利之丞)

「中日の若者の消費文化と広告の影響力」

メディアの多様化、高度情報化の時代にメディアは若者の消費文化に大きな影響を

与えている。その中で、中国と日本の消費文化の共通点と相違点を分析し、広告の影響力について研究。

中国・瀋陽の大学生と本学学生でそれぞれ40名と80名を対象にしてアンケートを実施した。両国の若者の消費文化、メディアとの接し方の共通点は「T型世代」という概念でまとめられ、広くて浅い「おさえ」と好きなものを深くという「こだわり」をひたりの中で両立し、使い分けていることである。「おさえ」の部分は共有の消費や行動で、共通な情報源から情報を入手することである。「こだわり」は主體的に情報を収集することである。若者は時代に遅れたくない意識がどの世代よりも強く、情報収集を重視している。マスメディアは若者の重要な情報源であり、特に広告は若者の消費文化に大きな影響を与えていることが分かった。

また、アンケートを通じて、日本の若者は価格意識が強いことと中国の若者は環境意識が強いという状況も浮かび上がってきた。ただ、中国の広告に関する資料やデータの収集とアンケート内容の設定と実施は困難なものであった。木曾利之丞教授と山本文恵先生の助けにしてお礼を申し上げたい。

北口 由香
(黄 志軍ゼミ)

「日本と漢語文化圏における動物のイメージの違いについて」

ムの中、文化や環境の違いで生じる動物のイメージをアンケートを中心に調査分析した。アンケートは日本と、本学で最も留学生が多い漢語文化圏(本論文では主に中国を指す)の学生各1000人を対照とした。内容は「犬」「猫」「鳥」「牛」「蛇」「虎」についてイメージを思いつくまま最高3つまで回答してもらった。尚、先入観を持たせなかった例題などは一切挙げなかった。良

いイメージにはプラス、悪いイメージにはマイナス、良い悪いイメージにはプラスマイナスとした。

興味深い相違が見られたのは「虎」と「牛」であった。他の動物は日本と漢語文化圏の間に特に大きな差は見られなかった。「虎」は日本ではプラスモイナスもほぼ均等だったが、漢語文化圏では半数以上がプラスイメージを持っていて、日本人にとつて「牛」は、プラスイメージがほとんどなかったが、逆に漢語文化圏ではプラスイメージが6割以上もあつた。

最終的に人間にとつて身近な動物ほどプラス、あるいはマイナスイメージを持っているということが分かった。
人間健康科学科 升田駒子
(正木美知子ゼミ)

「中高年と学生の健康に対する意識・行動の比較」

老いを自覚する40・50代と学生との健康への関心度と健康維持の方法などについて文献研究とアンケートで調査。大人96名に対して学生は86名を対象に健康状態、食生活、日常の行動・運動など40項目の内容にした。今の健康状態について、学生より中高年なかでも女性が良いと答えている。健康診断は中高年の90%が年1回は受けているが学生男子では半数しかいなかった。運動している人は男女とも中高年が学生を上回っていた。

運動していない人の多くは機会がない「時間が無い」という理由であった。欠食習慣は学生に多くまた朝食を抜いている人は世代に関係なく多かつた。外食については、学生の約半数が恒常的にとつており、夜の夕食が多かつた。ストレスを感じている人は世代に関係なく多くその発散方法は学生男子以外ほとんど持っていないが、健康への関心度は中高年の女性が一番高く中高年男子、学生の順であつた。また、学生の生活習慣病に対

する関心は極めて低い。20代から気を配るべきである。スポーツ行動学科 舛見法子
(指導教員 世戸俊男)

第二次成長期のフィットネス産業が従業員に対して

郵送調査法により「ジム・スタジオ・ボール」を持つ近畿・東海、中国地方のフィットネスクラブ454箇所に質問用紙を送った。内容は企業が行う研修制度について正社員、契約社員、アルバイトの3つの雇用形態に分けてそれぞれ5項目の調査を実施した。回答は70通。研修制度は雇用形態にかかわら

ず80%以上で実施している。実施頻度は不定期が多く定期的実施企業は20%前後であつた。さらに有資格者に対する給与面での優遇制度は各雇用形態とも65%以上が持っていない。研修制度は有資格者に対する給与に対する育成に欠けている一面が見えた。

また、資格重視の職場でありながら有資格者に対する優遇制度の定着率が低く今後は従業員への働く意欲と技術向上に力を注ぐべきである。

幼稚園絵画表彰 (敬称略)

第63回全国教育美術展 (平成16年2月5日)
特選 小野美咲子(すみれ組)
▽大江珠代(あやめ組) 入選 野末莉奈(ひまわり組) 藤川拓巳▽中村日向子(以上すみれ組)

組)▽久保美翔(ゆり組)▽江原麻美▽玉置早苗(以上あやめ組) 佳作 上利果穂(ひまわり組)▽柴田知佳(あやめ組)

第40回全大阪幼年美術展 (平成16年3月6日)
入選 丸丸直岐▽和田藍里▽古川菜々美(以上あやめ組)▽川崎悠平▽倉岡 花▽中西亮太(以上ゆり組)▽戒 美憂▽川原さゆり▽金谷美佳▽中村日向子(以上すみれ組) 佳作 上利果穂(ひまわり組)▽信藤梨実(すみれ組) 努力賞 大江珠代▽戸根 華▽八木幸浩▽藤重璃士▽加藤雅也▽江原麻未▽岩元慶太(以上あやめ組)▽玉木大▽開田健太郎(以上ゆり組)▽森川 拓▽藤原佐恵▽今村愛(以上ひまわり組)▽小野美咲子▽福富暁平▽細川 健▽松田拓也▽大西倫平▽兼平朋果(以上すみれ組)

BOOK
大阪国際大学 人間健康科学科 教授 南直人(編集委員)

「世界の食文化」

全20巻
社団法人農山漁村文化協会
予価3200円 揃予価64000円

海外の食情報がコンテンツポリリーで紹介され、国内でも各料理が堪能できるようにもなつて、依然として食に関する多くの情報は網羅的・表面的な解説に留まっていたといえる。そんな不満にこたえ、台所と食卓から世界を読み解く「世界の食文化」(全20巻)である。本シリーズは石毛直道・国立民族学博物館前館長監修の

も、食文化研究のリーダ6名が編集委員をつとめ、各巻は各地域を熟知している文化人類学、歴史学、政治学、文学、経済学など多彩なジャンルの研究者によって執筆され、専門性と著者の個性の双方を兼ねそろえた魅力的なシリーズとなつていく。たとえば第18巻の「ドイツ」は、編集委員もつとめる南直人氏(大阪国際大学教授・ドイツ近代史)の筆による。どちらかというとイメージの薄いドイツの食を1章ではバラエティに富んだ郷土料理の紹介、2章ではゲルマンの伝統やキリスト教の影響といったドイツ食文化の源流、3章ではジャガイモやコーヒールがいかにか国民的食料・飲料となつていったか、4・5章では、ドイツ近現代の庶民の食を



各巻巻頭に大村次郎・広津秋義両氏掲げられている家庭の食の風景が掲げられている。グローバルセッションやファーストフードが席巻する時代にあつてなお守り継がれている食の姿がここにある。なおこのカラー企画は季刊の食文化誌「ヴェスタ」に先行掲載されているので、関心をお持ちの方は、ぜひご参照いただきたい。
(http://www.syokubunka.or.jp/doc/index.htm)
(評者 財団法人味の文化センター 草野美保)

社 1950円
○「SEIのための仕事術心得ノート」人間科学部人間健康科学科教授 福田真規夫 共著、日刊工業新聞社 2100円

○「気候風土に学ぶ」同 共著、学生

○「言葉にこだわるイギリス社会」元政経学部教授 故 John Henry 氏 著 岩波書店 2800円

○「アジアと英辞典 第2版」経営情報学部教授 畠山利一▽教授 Gerald Lange 編集委員(共) 大修館書店 3300円

○「スポーツ健康科学」人間科学部スポーツ行動学教授 井上芳光 共著 文光堂 3500円

スコッチ・オークバーン・カレッジ(オーストラリア)



中学3年間で学んだ英語を駆使して、交流を深める

タスマニアの伝統校で

大和田中学3年終了後の海外研修旅行では、生徒全員が1週間の滞在期間、ホスト生の家庭でホームステイをしながら、現地の日常生活や学校生活を楽しみます。

現地校では、オーストラリアの伝統菓子であるアンザッククッキーの調理実習や、身近なものを写した写真撮影と現像など実践的な授業を現地校の先生の英語で体験します。また、スコッチオークバーン校では日本語が2年間の必修科目となっており、在校生の日本への関心も非常に高く、至る所から投げかけられるスコッチ生の「こんにちわ」という声は本校生達の緊張を解きほぐしてくれました。お返しに行う交換授業では、

筆遣いに悪戦苦闘しながらも、本校生の助けをかりて字を書き大歓声をあげたり、自分の名前を漢字で書いてもらって大喜びしている生徒など微笑ましい光景が繰り広げられます。

課外授業も盛りだくさんで、農場見学、カタラクト峡谷へのピクニック、海辺への散歩など都会に暮らす私たちが日常体験できない大自然との触れあいに生徒たちは深い感動をおぼえるようです。

最初のうちは初めての海外生活で身を固くしている生徒たちも、1週間の滞在を終える頃には、素晴らしい大自然の中で、タスマニアの人々の温かい心に触れ、ホストファミリーとの別れを惜しみながら涙、涙で帰路につきます。

充実の交換授業と感動の課外活動

書道や日本語の歌、折り紙

バーン・カレッジは1979年創立の伝統ある名門校で、本校とは2000年に姉妹校提携を交わして以来、隔年の相互訪問を行っています。

本校生が中学3年間で習得した英語を駆使して、書道や日本語の日本の歌、折り紙等を教えます。スコッチ生の間では書道が大人気で、なかなかうまく運ばない

第16回「国際シンポジウム」開く

大和田中学校

大学・短大国際関係研究所が主催する第16回国際シンポジウムが、昨年12月12日、開催された。枚方キャンパス開学時から時局を捉えたテーマで企業からの参加者を多く得てきたこのシンポジウムは、大阪市中央区の(社)日本綿業倶楽部を会場に今回で16回目を迎えた。

テーマは「経済大国化する中国とインドー国際環境の変化と地域経済への影響」。総合同会を国際関係研究所長 大矢吉之教授が務めた。

まず、在大阪神戸インド総領事 R. O. Neil Wallang 氏が、「IT 大国インドの台頭」と題し、ソフトウェアの輸出など IT 分野で飛躍的な発展を続けている経緯を講演。次に、(株)富士通総研 経済研究所主任研究員 柯隆氏が、「中国への企業進出と

経済大国化する中国とインド 国際環境の変化などインド総領事ら講演



企業から多くの参加者が集まり、毎年熱気に包まれるシンポジウム会場

人民元問題の動向」と題し講演、対中投資ブームなどについて日

本企業へのアドバイスも行った。引き続き、国際大経営情報学

ソウル市内の中・高校長ら 滝井高校を訪問 韓日文化交流の一環

韓国の修学旅行生を日本に招くために、ソウル市内の中学高校の学校長ら15名からなる視察のツアーが2月25日から27日まで株式会社 JTB により行われ、その日程の中で一行は26日に滝井

部 James T. Goode 教授が、「国際環境の変化と中小企業・地域経済」のタイトルで、グローバル化における中小企業の生き残り策などを語った。

講演後、モデレーターを経営情報学部 西口義展教授が務めて質疑応答が行われた。



交流団に抹茶をふるまう滝井高校生

滝井高校 奥田奨学金で海外留学の3人招き 国際交流ホームルーム

滝井高校では、2月9日、国際大から海外へ留学経験のある学生3人を招き、国際交流ホームルームが行われた。

今回招かれた3人は、杉本知佳さん(人間科学部国際コミュニケーション学科3年次生)、

黒川有紀子さん(同スポーツ行動学科4年次生)、奥 朱穂さん(同社会コミュニケーション学科4年次生)で、いずれも奥田政三教育・研究基金による奨学金を得て、日本語教員アシスタントとして各国へ派遣された

学生たち。ホームルームは2年生と1年生を対象に2回行われ、それぞれ約15分の体験談が語られた後、質疑応答が行われた。

モンゴルへ派遣された杉本さんは、デルという現地の民族衣装で講演。ニュージーランドで日本の良さに気づいたという黒川さんは着物を登場。奥さんは失敗談も織りまぜながら楽しくヴェトナムでの体験を語るなど、3人はそれぞれ後輩たちにわかりやすく、興味深い内容で工夫を凝らした。



着物姿で講演する黒川さんの話に真剣に耳を傾ける

生徒らは、身近な先輩が自らチャンスを活かし、海外で様々な体験を通して成長してきた話に、真剣に耳を傾け、「びっくりするような習慣の違いはありましたか?」「各国は日本に対してどんな印象を持っていますか?」などと質問。国際大生3人は「すごく緊張したけど、こんなに大勢の高校生の前で話すなんて良い経験になりました」と語り、互いにとって実り大きいホームルームとなった。

井高校を訪れた。

同ツアーは、韓国から日本を訪れる修学旅行生の査証(ビザ)が3月1日から免除されることを受け行われたもの。単なる観光地巡りにならないように、また日本の学校との交流を希望す

る意見が多かったため、今回国際交流に力を入れている同校が選ばれた。

交流団は日本文化授業の生徒による抹茶を味わったり、パソコン授業の様子や体育館など学内施設を見学後大教室で同校教

師らと進学率や日本の教育などについて活発な意見交換会を行った。奥田吾朗校長は「一人でも多くの韓国高校生が修学旅行先として当地を訪問し、未来の韓日関係を築く架け橋がたくさん生まれることを祈念しま

す」と挨拶。

また、団長の五輪中学校の金鉦煥校長は「生徒達がとても礼儀正しく接してくれたことがとても印象的。互いの文化を理解し友好的に発展することを望みます」と話していた。

羊帝会(なでしこの会) 国際大同窓会

組織こえ統合へ進む

平成16年度4月から、本学園の3同窓会(羊帝会・なでしこの会・大阪国際大学同窓会)で、会員への福利厚生事業と母校への支援事業をより強化していくために、組織を越えて協力できる事業体の結成に向けた活動を始めています。

そのもとの契機は、14年度の大学改革(女子大の男女共学化及び統合、短大の名称変更)の際、同窓会組織の将来的な統合という方向性について各同窓会で検討していた。昨年度は、より具体的な検討を行うために、各同窓会の会長以下役員が集い、

大阪国際女子大学「なでしこの会」35周年記念同窓会

日時 平成16年8月1日(日) 11時30分~13時30分
場所 ホテル阪急インターナショナル「紫苑」

6月中旬に案内状を送付する予定にしております。みなさんお誘い合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

※検討中の統合事業(案)
①来る2009年(平成21年度)の学園創立80周年記念に向けた事業の企画・立案
②広報活動の一元化による会員相互の交流の促進と母校への支援・支持体制の強化
③守口・枚方両キャンパスの教育環境・設備等の改善・支援
④経済的な事由による就学困難な学生(同窓会準会員)の救済措置としての奨学金貸与

ヘッドラインニュース

Table with 2 columns: Date/Event and Description. Includes various university activities, conferences, and sports events.

からお願い申し上げます。
国際大政経学部1期生同窓会

シンクロ・スイスオープン
長谷川早希さん優勝

シンクロナイズドスイミングの世界舞台で活躍中の長谷川早希さん(女子大人間科学部スポーツ行動学科4年次生、第32号で紹介)が、昨年、ナショナルBチーム(Aチームは五輪代表レベル)10人の1人として、「スイスオープン」選手権大会(平成15年7月3日~6日、パルセル)に出場、チームとフリールーティンコンビネーションで見事優勝を果たした。



優勝したスイスオープン・フリールーティン。左から3番目が長谷川さん。「007」のテーマに乗り華麗な演技を披露した

また、日本選手権チーム4位・ジャパンオープン6位(4/4~6、横浜)、日本シンクロチャレンジャカップ2003チーム優勝(8/14~17、東京)など活躍を続け、大阪府教育委員会から贈られる大阪スポーツ大賞優秀選手賞(10月)、大阪水泳協会最優秀選手賞(10月)なども受賞した。

幹事・藤原 哲
(大学・短大人試・広報部勤務)

し、続く選考会でナショナルチーム入りを再び目指す。

国際大・女子大・短大 軟式野球部
・11/9 第20回西日本大学選手権大会 2回戦敗退
・10/31 友好都市スポーツ大会・上海 大阪市代表チーム 100m3位 200m優勝 加茂有希子(スポ行3)

大和町中学校
・11/20 第47回全国書きぞめ作品展覧会 団体賞 大阪府知事賞 個人賞
・11/23 大阪府教育委員会賞 田中綾子(守口市市長賞 松田千絵(全日本芸術振興学会賞 石畑香奈(以上3)他研究会賞14名 特選賞26名 入選賞43名)

吹奏楽部
・12/23 大阪府アンサンブルコンテスト 金賞 銅賞
・11/11 大阪インストア大会 出場
・8/28 第50回大阪府立高校総合体育大会 個人戦 4回戦敗退
・9/7 守口市市民大会 団体戦 準優勝

ラグロス部(女子)
・10/31 Hawaii Lacrosse Invitational Tournament 関西コース選抜強化遠征選抜選手 飛澤園子、十万博美、西村由衣、北村真千子(以上スポ行2)、富永小百合(人健2)、裏野美

香(幼教2)
・11/25 第14回関西学生リーグ戦 5位
・11/23 関西女子学生秋季トーナメント 準優勝
・10/5 第37回全日本学生大会 女子2段以上の部(組演武)優秀賞(2位) 富岡真子(人健4)

滝井高校
・12/19 第22回近畿私立高校優勝大会 準優勝
・12/23 第8回全国私立高校選手権大会 ベスト8
・2/21 第35回全国高校選抜優勝大会(春の高校バレー) 大阪予選優勝
・3/20 第35回全国高校選抜優勝大会(春の高校バレー) 一回戦敗退

吹奏楽部
・11/3 第25回マーチングバンド関西大会 優秀賞
・11/16 近畿高校芸術文化祭 奨励賞
・11/16 精華町 せいり祭り せいりかパレード グッドサウンド賞
・12/23 大阪府アンサンブルコンテスト 菅打八重奏 銀賞、木管八重奏 銀賞

大和田高校
・12/17 第22回近畿私立高校選手権大会 3位リーグ敗退
・1/19 第35回全国高校選抜優勝大会(春の高校バレー) 大阪予選一回戦敗退
・10/5 大阪高校総合体育大会 3位
・11/9 大阪府秋季大会 3位
・11/23 第32回大阪府私立新人選手権大会 優勝

剣道部
・7/13 第50回大阪府下大会 出場
・7/24 玉竜旗高校大会 2回戦
・8/15 第50回大阪総合 体育大会 団体 ベスト8
・12/23 大阪府アンサンブルコンテスト 金賞 銅賞
・11/11 大阪インストア大会 出場
・8/28 第50回大阪府立高校総合体育大会 個人戦 4回戦敗退
・9/7 守口市市民大会 団体戦 準優勝

ラグロス部(女子)
・10/31 Hawaii Lacrosse Invitational Tournament 関西コース選抜強化遠征選抜選手 飛澤園子、十万博美、西村由衣、北村真千子(以上スポ行2)、富永小百合(人健2)、裏野美

大阪高校選手権大会) 団体戦 ベスト16位
・11/23 枚方信用金庫ソフトテニス杯 8位
大和田中学
・10/11 第57回大阪中学校秋季総合体育大会 優勝
・11/23 北河内新人大会 優勝
・12/28 JOCジュニアオリンピック杯 第17回全国都道府県対抗中学校大会選抜選手 準優勝 北村みどり、野島美穂、吉田みなみ(以上3)

滝井高校
・1/20 第47回全国書きぞめ作品展覧会 団体賞 大阪府知事賞 個人賞
・11/23 大阪府教育委員会賞 田中綾子(守口市市長賞 松田千絵(全日本芸術振興学会賞 石畑香奈(以上3)他研究会賞14名 特選賞26名 入選賞43名)

大和田中学校
・1/20 第47回全国書きぞめ作品展覧会 団体賞 大阪府知事賞 個人賞
・11/23 大阪府教育委員会賞 田中綾子(守口市市長賞 松田千絵(全日本芸術振興学会賞 石畑香奈(以上3)他研究会賞14名 特選賞26名 入選賞43名)

吹奏楽部
・12/23 大阪府アンサンブルコンテスト 金賞 銅賞
・11/11 大阪インストア大会 出場
・8/28 第50回大阪府立高校総合体育大会 個人戦 4回戦敗退
・9/7 守口市市民大会 団体戦 準優勝

ラグロス部(女子)
・10/31 Hawaii Lacrosse Invitational Tournament 関西コース選抜強化遠征選抜選手 飛澤園子、十万博美、西村由衣、北村真千子(以上スポ行2)、富永小百合(人健2)、裏野美

お詫びと訂正
第36号販売し検定2級(15年10月1日実施)合格者名に記載の「松岡早織」さんは正しくは「松岡早織」さんです。お詫びし訂正いたします。

平成16年度入試を振り返って

推薦で短大は前年度増

大学・心理コミ 他大学に分散か

〈大学・短大〉

18歳人口が平成15年度146万人から再び減少をはじめ、平成21年度には121万人までとどまることなく減少する状況下で、16年度入試は、昨年度より5万人減少し141万人となる年にあたる。過去2年間で志願者数は前年を上回って増加したからといって、本学は決して優位な立場に位置づけられていないと自覚して戦線に突入した。学生募集の前半戦にあたる推薦入試の結果、志願者は大学で前年比94.6%、短大で105.6%であった。自己推薦入試の

導入や2日間設けた入試では同一学科・コースの重複受験が可能となったことが功を奏して、昨年度並の志願者が確保できたといいたい。入学定員を短大から大学へ60名(経営情報学部30名、人間科学部心理コミュニケーション30名増)振り替えたことを考慮すると大学の志願者の減少は後半戦の一般入試に不安な影を落とした。

〈滝井高校〉

過去2年連続して募集人員を大幅に下回る入学者しか確保出来なかった。これは経営的にも学術的にも学校存続に関わるものである。そのような危機の下、募集戦略のあらゆる見直しを行

募集活動の充実が奏効

教職員一丸となり本校の良さを徹底アピール

来なかった。これは経営的にも学術的にも学校存続に関わるものである。そのような危機の下、募集戦略のあらゆる見直しを行

野であったが、新設された学部・学科にこの分野が多く、心理コミュニケーション学科の志願者が他大学へ分散したと考えられる。経営情報学部も大学志願人口減少の波に吞まれたと感じざるを得ない。短大志願者は推薦出願傾向が強く一般選考での減少は予想されていたが、志願者を集める幼児教育科が推薦では前年を上回ったが、一般で下回ったのは気になる。一般で(入試・広報課長 塚本和宏)

17年度学生募集は、さらに厳しいものになることは明白である。全教職員の理解と協力を得て、この逆風を撥ね返して学生募集に努めたい。

全教職員・その家族知人へのアンケート実施による学校案内パンフレットの見直し。「あなただけのなりたい」を応援します。」をコンセプトとして、オープンキャンパスの葉書付き広報チラシ、生徒も制作に関わった学校生活案内誌「滝井誌1・2」の配布を昨年以上の頻繁な中学校訪問と共に進めた。この結果、国際科は完成年度でもあり、長期留学等の魅力が受験生に浸透し、さらに国際的なテロやSARSによる危険度も減少したため、人気上昇したのではないだろうか。

また、国際コースの内容を一部変更し、難関私立大学文科系への進学を強化するカリキュラム編成を行った。進学実績も、開関立合格100名に復活したことにより、これを全面に押し出し広報活動を展開した。学

待ち、より一層の募集活動に励んだ。結果的には、実入学者数が前年度より113名増という大きな成果を得ることができた。幸いにして、募集活動に対する学園からの資金投入も従来より増え、新たに5教科評定合計35以上の受験生に対する特待生制度を導入し、レベルの高い受験生の確保、及びその波及効果による受験生の増加も見られたようである。(教頭 伊藤雅之)

めたいと考えている。(教頭 河井康宏 募集・進路担当)

3コース制の充実で 実入学者はアップ

〈大和田中・高校〉

高等学校は、前年度大きく募集人数を下回った反省から、いかにして優秀な受験生を多く獲得するか、について議論を重ねた。今年度は、15歳人口の減少は、一時的に止まったとはいえず、依然として公立高校志向が強い状況に変化はない。このような中で、男子生徒の獲得が最大のポイントであると考え、前年までの2コース制を、英数コース、国際コース、教養コースの3コース制とし、男子募集を、国際コースまで拡大することとした。

また、上位の受験生を確保するために、従来の入試100番以内受験生公立並授業料特典に加え、新たに入試20番以内受験生授業料全額免除特典を導入した。これらにより、受験生は前年より、専願86名、併願76名の増加となり、実入学者数も277名(前年度202名)に増加した。しかし次年度は、また厳しい状況が予測されるため、更なる改革を行っていきたいと考えている。

同コンクールは、日本語・英語どちらでも参加可能で、滝井高校ではオール・コミュニケーションの授業で英語短歌に取り組み応募。国内外高校からの応募総数は、11990首のうち英語は131首で、その中から10首に選ばれた。3人には、賞状と副賞(図書券1万円分)が贈られた。昨年も1人が入選している。入選作品は以下の通り。(敬称略)

平成17年度 入試日程 学生募集要項

選考種別	出願期間(消印有効)	選考日	合格発表日	入学手続期間(必着)
一次	9月13日(月)~22日(水)	10月2日(土)	10月8日(金)	10月12日(火)~18日(月)
二次	9月13日(月)~22日(水)	※2月15日(火) 2月12日(土)	10月8日(金)	10月12日(火)~18日(月)
博士(後期)課程 ※経営情報学研究科のみ	1月31日(月)~2月4日(金)	※2月15日(火)	2月18日(金)	2月21日(月)~25日(金)

選考種別(略称)	出願期間(消印有効)	選考日	合格発表日	入学手続期間(必着)
推薦 I 期	10月18日(月)~25日(月)	11月2日(火)	11月9日(火)	11月10日(水)~16日(火)
推薦 II 期	11月11日(木)~19日(金)	11月27日(土)・28日(日)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 III 期	12月1日(水)~9日(木)	12月18日(土)	12月25日(土)	12月27日(月)~1月7日(金)
推薦 IV 期	11月11日(木)~19日(金)	11月28日(日)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 V 期	1月13日(木)~21日(金)	1月30日(日)	2月6日(日)	2月7日(月)~10日(木)
推薦 VI 期	2月10日(木)~18日(金)	2月26日(土)	3月5日(土)	3月7日(月)~11日(金)
推薦 VII 期	11月11日(木)~19日(金)	11月27日(土)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 VIII 期	2月2日(水)~16日(水)	2月26日(土)	3月5日(土)	3月7日(月)~11日(金)
推薦 IX 期	11月11日(木)~19日(金)	11月27日(土)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 X 期	2月2日(水)~16日(水)	2月26日(土)	3月5日(土)	3月7日(月)~11日(金)

※一般入試は期間最終日が金曜日の場合は翌月曜日、それ以外の曜日の場合は翌日に限り守口へ持込出願可

選考種別(略称)	出願期間(消印有効)	選考日	合格発表日	入学手続期間(必着)
推薦 I 期	10月18日(月)~25日(月)	11月2日(火)	11月9日(火)	11月10日(水)~16日(火)
推薦 II 期	11月11日(木)~19日(金)	11月27日(土)・28日(日)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 III 期	12月1日(水)~9日(木)	12月18日(土)	12月25日(土)	12月27日(月)~1月7日(金)
推薦 IV 期	11月11日(木)~19日(金)	11月28日(日)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 V 期	1月13日(木)~21日(金)	1月30日(日)	2月6日(日)	2月7日(月)~10日(木)
推薦 VI 期	2月10日(木)~18日(金)	2月26日(土)	3月5日(土)	3月7日(月)~11日(金)
推薦 VII 期	11月11日(木)~19日(金)	11月27日(土)	12月4日(土)	12月6日(月)~10日(金)
推薦 VIII 期	2月2日(水)~16日(水)	2月26日(土)	3月5日(土)	3月7日(月)~11日(金)

※一般入試は翌週月曜日に限り守口へ持込出願可

DATA 平成16年度 入試結果

学部・学科	志願者数	受験者数	合格者数
経営情報学部	298	291	252
法政経学部	219	216	166
心理コミュニケーション学科	235	231	121
国際コミュニケーション学科	197	193	113
人間健康科学科	221	217	106
スポーツ行動学科	182	181	90
人間科学部 計	835	822	430
3学部総計	1352	1329	857

※志願者、受験者には、第2志望の合格者数を含む

学部・学科	志願者数	受験者数	合格者数
経営情報学部	18	18	16
法政経学部	14	14	7
心理コミュニケーション学科	12	11	5
国際コミュニケーション学科	15	15	10
人間健康科学科	2	2	2
スポーツ行動学科	12	11	10
人間科学部 計	41	39	27
3学部総計	73	71	50

※志願者、受験者には、第2、第3志望の合格者数を含む

学部・コース	志願者数	受験者数	合格者数
栄耀士	82	81	38
生活文化	64	64	34
家政科 計	146	145	72
経営	36	27	9
体育	70	70	32
幼児教育科 計	375	365	168
観光・国際	100	94	29
流通・経営	18	18	8
情報・メディア	30	29	18
国際文化学科 計	148	141	53
合計	669	661	397

※志願者、受験者には、第2、第3志望の合格者数を含む

普通科	1次	1.5次	2次	併願
受験者数	156(100)	2(3)	2(1)	59(50)
合格者数	153(98)	2(3)	2(1)	50(42)
併願	2(3)	2(3)	2(1)	237(308)
合計	158(103)	4(6)	4(2)	297(350)

※併願は前年度

普通科	1次	1.5次	2次	併願
受験者数	95(55)	9(5)	9(5)	50(50)
合格者数	35(35)	7(7)	7(7)	237(308)
併願	37(37)	7(7)	7(7)	144(144)
合計	132(132)	16(12)	16(12)	297(350)

※併願は前年度

大和南校	1次	1.5次	2次	併願
受験者数	59(57)	9(21)	9(7)	56(54)
合格者数	56(54)	7(16)	7(7)	63(78)
併願	9(21)	7(16)	7(7)	144(144)
合計	68(78)	16(37)	16(14)	227(276)

()は前年度

Under the sunlight many boys play at Koshien pouring the sweat of youth they catch their dreams this summer. impressing many people. Mars, brilliant planet Awaken, old memories Twinkle in the south sky Like fire in a lover's eyes Longing to come together.

同コンクールは、日本語・英語どちらでも参加可能で、滝井高校ではオール・コミュニケーションの授業で英語短歌に取り組み応募。国内外高校からの応募総数は、11990首のうち英語は131首で、その中から10首に選ばれた。3人には、賞状と副賞(図書券1万円分)が贈られた。昨年も1人が入選している。入選作品は以下の通り。(敬称略)

尾崎杏澄
ocean at midnight
the moon is twinkling
the stars are shining
the sky looks like a diamond
and the ocean become a jewel.

中河祐美
Mars, brilliant planet
Awaken, old memories
Twinkle in the south sky
Like fire in a lover's eyes
Longing to come together.

厳しい状況下の就職活動

職業観の確立が大切 社会への好奇心の持続も

15年度の総括

少し古い記事になりますが、昨年の10月28日の日本経済新聞は、平成16年春の大卒定期採用は昨年実績比7.0%減となっていること、及び中途採用強化の傾向を伝えています。

最近の景気動向に関する各種調査は、上向きの観測が増えていくとはいえ、15年大阪府の失業率は7%台と全国の中でも極めて厳しい状況が続いています。バブル崩壊後、日本の各企業の考え方は明らかに変化しており、経営の方法や雇用の形態も劇的に変化しています。

このような状況の中で、満足する仕事に就くためには、自身のリアルな職業観を確立することが肝要です。自分はどうな能力があつて、何がやりたいのか、そして、どのようなときに自分は社会での存在意義を感じることができているのか、こういったことについて深く内省し、行動することが重要です。

このような内省や行動は、単なる就職内定を目的とするものではなく、長い職業生活を視野に入れる考え方です。

本年度の本学学生の就職活動

厳選採用、一段と進む

履歴書添削など 個別指導が実る

昨年4月17日の日経新聞に掲載された「大学、短大の求人は前年と比べ各々△5.5%、△2.2%」という記事からすると就職環境は少しは良くなるはずだったが、文科科学省と厚生労働省の発表した15年10月1日の内定率(前年比)は大学60.2%(▼3.9%)短大29.0%(▼7.1%)となった。

つまり、求人数は増えたが、逆に内定率は落ちたという結果になったのだ。企業側は採用予定数という量には拘らず、学生の質を求めたということが明確になり、厳選採用が一段と進んだ年であった。16年2月1日の内定率(前年比)も大学82.1%(▼1.4%)短大68.5%(▼2.1%)と改善せず前年比をわずかに落ち込んでいる。

一方、本学の就職状況は就職希望率、就職決定率とも昨年の数字を上回ると予想されるが、これは15年4月から10カ月間の面接総数約3,200件の62.5%に当たる約2,000件を履歴書の添削や面接指導、求人への振り返ると、近視眼的に職業を考へる若者が目立つてきたように思われました。このような考え方は、就職がゴールであるかのような錯覚を生み、就職活動の少しの挫折で社会への参加を自ら拒むような行動になりがちです。

価値観が多様化する中で、自分の進路に迷うことは当然あると思います。その時、安易に妥協するのではなく、自分の将来を考え抜く勇気と想像力、そして社会に対する好奇心を持ち続けてほしいと思います。

平成16年度より大学・短大進路・就職部はキャリアセンターに名称が変わりました。就職行事は、枚方キャンパスは変則毎週金曜日、就職活動準備講座、守口キャンパスは毎週水曜日、就勝のための実践ビジネス講座、「一般常識テスト」、変則土曜「漢字検定」などを予定。

私たちは、みなさんの社会生活が豊かなものになることを願っています。卒業後も自分の将来に迷うことがあれば、遠慮なく訪ねてください。

一緒にあなたの未来を考えましょう。

大阪国際大学キャリアセンター 課長 中山貴嗣

就職奮戦記

報われた企業探し 経験、今後に生かす
株式会社 関西マツダ



大阪国際大学 法政経学部 政経学科 篠原拓也

就職活動をする前から、自動車ディーラーに入りたいと考えていたの行動はしやすかった。この仕事に興味を持ったのは、元々車好きであったということと知り合いの方から「車を売る楽しさ」について話を聞いてからである。本格的に活動したのは平成15年1月中旬からで、

20代で独立、一級建築士に



大阪国際大学経営情報学部 西村真一 建築事務所 一級建築士事務所所長 平成6年卒

OIUではさまざまな先生方から刺激を受けましたが、小田野教授から1回生の終わりにダブルメジャー(第2専攻)を勧められて、OIUで学びながら(テニス部には迷惑をかけたが)夜間の建築専門学校に通い始めました。

20代のうちに独立をしようと在学中から決めていたので、就職は様々なことが経験できる小さな企業を選び、色々な業務をこなすようにしました。また、1年にひとつの資格をとることを目標に、勉強しました。

29才の時に独立を果たし、現在は、一級建築士として主に住宅、ビル、商業施設、倉庫、工場などの建築を中心に設計施工一貫監理の仕事をしています。また、日建学院枚方校で1級建築士設計製図講師、行政書士では、大阪府行政書士会守口支部支部長をしています。宅建業(不動産)も行っています。僕の事務所のコンセプトは、建物を建てようとしている方々にとって必要な情報と判断基準を提供することです。自営でやっているのもとても楽しく、充実しています。

学生の皆さんは、これから自分の専門分野を何にするかを考えて勉強に励んでほしいです。また、大学時代の友人は一生ものだと思えます。OIUでたくさんのいい思い出を作ってください。僕も、OIUで学べて本当によかったと思っています。E-mail: shin@nishimura-s.com

OB・OGレポート

趣味のダンス貫き仕事に



大阪国際大学人間科学部 ダンスインストラクター 河合美和 平成14年卒

「ダンスの道で行こう」と決心したのは、就職活動が始まる時期でした。大学を卒業して、2年になります。現在、私は、17歳の頃から始めたダンスで仕事をしています。大学を卒業後、スタジオなどでダンスのレッスンを持ち、自分自身もイベントやコンテスト、舞台などに立っています。また、去年から大学で授業も担当しています。

人にものを伝えるというのはとても難しく、レッスンを始めた当初は、わからないことも多く大変な毎日、学生から社会人になり、社会の厳しさを痛感しました。

しかし、逃げずに試行錯誤を繰り返しながらレッスンをしていると楽しいことも増え、生徒が踊れる様になっていく姿を感じたりする時など心底うれしく、たくさんの楽しさや喜びを感じられるようになりました。

趣味を仕事にすることは本当に大変なことですが、その分楽しいこともたくさんあるということを感じています。まだまだ勉強中の日々ですが、毎日がとても充実して、この道を選択して本当によかったと思います。

「進路選択」をする時、たくさん迷う事があると思いますが、一番大切なのは「自分がどうしたいか、またどうすべきなのか。」だと思います。そして、一つの道を決めたら、日々努力で、その道を貫いてください。

まったく興味のない企業でも毎日訪問した。それはディーラーの説明会時期などが4月中旬以降だったので、それまでに説明会の雰囲気、筆記試験、面接などの経験を多く積むことによつて万全の状態で見つけたからである。

まず重要なのは履歴書、エントリーシートなどの対策である。私は文章が苦手だったので、何回も練習をした。そして出てくる度に見てもらい、指摘された所を修正するといったことを繰り返した。面接などはとにかく大きな声で話すことを心がけていた。あとどんな質問があつても「自分の意見を自信を持って発言する」ことを頭の中に入れていた。

結果、第一志望の企業を含めて、計3社から内定が出た。今から振り返ると就職活動は社会に出るためのよい勉強になったと思う。短期間であったが話し方、文章の書き方など急速に上達したと感ずる。この経験を生かして今後につなげたいと思う。

面接試験ではあるがままの姿を株式会社U.F.J銀行

大阪国際大学 短期大学部 国際文化学科 佐々木美香

1年次生の10月に行われた就職セミナーがきっかけとなり、就職活動を始めました。初めは何をしていいか全く分からなかったのですが、就職ガイダンスに出席し、企業へのアプローチの仕方など、細かいところまで学ぶことができました。

私が本格的に活動し始めたのは12月で、合同企業説明会に参加し、年明けには採用試験を受けました。初めての面接では緊張しすぎ、言いたいことの半分も言えませんでした。

しかし最初は誰でも緊張するのが当たり前と思えばいいと思います。「笑顔でいる」「真剣に話を聞く」ことは常に心掛けていました。

面接試験を受けて私が感じたことは、良く見せようと自分を演じるのはいけません。正直に思ったことを言うべきだと思えます。企業にしても、作られた完璧な学生よりも自分に正直な学生を求めているのではないのでしょうか?就職活動とは自分に合った仕事を見つけれられる大切な期間です。

色々な企業と関わって、一番自分に合った企業を見極めて下さい。就職活動はとてもいい社会勉強にもなると思っています。

大阪国際学園 CALENDAR

大阪国際大学 (枚方キャンパス)

- 7.16 前期終講
- 7.19 補講(～23)
- 7.26 前期試験(～30)
- 9.6 集中講義(～10、16～22)
- 9.13 追・再試験(～15)
- 9.24 後期開講
- 10.9 大学祭(～10)

大阪国際大学 大阪国際女子大学 大阪国際大学短期大学部 (守口キャンパス)

- 7.16 前期終講
- 7.19 補講(～23)
- 7.26 前期試験(～30)
- 9.6 集中講義(～10、16～22)
- 9.13 追・再試験(～15)
- 9.24 後期開講
- 10.23 大学祭(～24)

大阪国際滝井高等学校

- 5.28 体育大会
- 6.8 中間考査(～11)
- 6.22 保護者会(～25)
- 7.3 コーラス大会
- 7.8 修学旅行(豪)～14【加】～29
- 7.9 修学旅行(北海道)～14
- 7.17 授業終了式
- 8.25 授業再開
- 9.16 期末考査(～22)
- 9.30 終業式
- 10.4 特別保護者会(～5)
- 10.8 始業式
- 10.23 文化祭(～24)
- 11.1 オーバーナイトイングリッシュセミナー(～2)(国際科1)

大阪国際大和田高等学校 大阪国際大和田中学校

- 5.31 教育実習(～6.11【中学、高校】)
- 6.5 体育祭
- 6.10 進路学習(高校)
- 6.18 保護者会(～22【高校】、授業参観【中学】)
- 6.24 人権研修(中学)
- 7.1 期末考査(～6【高校2国際、教養】)
- 7.8 期末考査(～14【高校1、2英数、3】)
- 7.9 期末考査(～13【中学】)
- 修学旅行(高校2国際、教養)(豪)～13【加】～26(ニュージーランド)～16)
- 7.15 林間(～17【中学1、2】)
- 7.16 夏期講習開始(高校)
- 7.20 英語セミナー(～22【中学1】)
- 7.31 終業式
- 8.2 特別講習(～11、8.19～23【高校3】)
- 8.20 学習合宿(～22【中学3、高校2】)
- 8.25 始業式
- 8.31 芸術鑑賞
- 9.2 合同集会(10.7)
- 9.12 文化祭(高校)
- 9.26 文化祭(中学)
- 10.6 授業参観(中学)
- 10.14 進路講演会(高校2)
- 10.20 中間考査(～23【高校】)
- 10.21 中間考査(～23【中学】)
- 10.27 避難訓練
- 10.28 進路講演会(高校1)
- 11.2 遠足(中学)
- 11.4 人権研修(中学、高校)
- 11.10 保護者会(～15)

大阪国際大和田幼稚園

- 5.27 避難訓練
- 6.4 親子遠足
- 6.19 音楽発表会
- 6.24 水遊び開始
- 7.12 個人懇談会(～14)
- 7.20 終業式
- 7.21 夏季保育(～23)
- 8.25 夏季保育(～27)
- 9.1 始業式
- 10.9 運動会
- 10.22 いもほり(園外)
- 11.5 幼稚園交流
- 11.19 避難訓練 毎月第2、4木曜日 園庭開放

おめでとう！卒業

新たなステージに向かって旅立ちの春、今年も、学園から1803人の学生・生徒・園児たちが希望を胸にそれぞれの道への第一歩を踏み出した。

学生・生徒・園児ら 各各の夢を胸に



エンカレッジ講座

学園エンカレッジセンターの行ったエンカレッジ講座の第一期生である10人は、それぞれの学部卒業を終え、3月19日、自ら企画した「エンカレッジ卒業式2004」を行った。就職率100%、内定獲得合計は約30社という大きな成果をあげ新たなスタートを切るうとして、いるが、社会人としての気持ちの準備と、成長した姿をお世話になった方々に見てもらおうとお礼の意をこめて企画したもの。

式をホテル京阪京橋翠松の間で行った後、大阪屋形船に会場をうつし謝恩会を行った。式には、仕事のため欠席となった1人を除き9人の卒業生が参加し、後輩である3年次生もお祝いにかけつけた。手作りの卒業アルバムを開きながら1人ずつ思い出を語った後、エンカレッジセンターの東田晋三助教授から修了証書が手渡された。奥田吾朗理事長がエンカレッジの考えをしっかりと受け

授と式が大講義室で行われた。式は学部毎で、10時から大学院経営情報学研究所修士課程8人と経営情報学部262人が卒業。金子敦郎学長から、代表・蘭嵐さん(大学院)、寧 茜さん(学部)に証書が手渡された。学部代表 下村 悠さんが、国際色豊かな環境の下「互いの文化の違いを尊重し、時に刺激され多くの事を学ぶことができた」とグローバルマインドの精神を旨とし歩いていくことを誓った。11時30分からは大学院総合社会科学研究科修士課程4人(法

学専攻3人、国際政経専攻1人)と法政経学部178人が卒業。代表・林 克典さん(大学院)、法学専攻)、付 国偉さん(国際政経専攻)、矢野恵子(学部)さんが、胸をはって証書を受けた。学部代表・菅原美和さんが、専攻の行政学で「生きた学問」に接していることを実感「現在に対する理解を深め、思考の幅を広げることができました」と述べ、友人たちとの充実した学生生活を振り返った。金子学長は式辞で、「皆さんを迎える世界は、決して優しい世界ではない」と、世界情勢に

触れ、また、卒業後も自分の目標のために勉強を続ける国際大の先輩を紹介し、自分を見つめる。より良い人生を切り開いていって下さい」と激励(写真)を述べた。奥田吾朗理事長から、また、卒業生一人一人にコメントを贈った。また、同センター事務室から、半年後、報告を送つて下さい」と切手を貼った葉書が渡された。9人は新人でトツプになり、明日、死ぬかもしれないという気持ちで、死を意識した生き方をしたいなど決意表明。式も終わりに近づき、東田助教授が全員を集めて熱いエールを切り閉会した。

謝恩会は、天満橋から屋形船に乗り込んだ。講座の講師など様々な形で世話になった企業の方々も集まり、約3時間大川を船に揺られながら、鍋を囲み盃を交しながら、さらなる大きな飛躍を目指して語り合った。

また、奥田吾朗理事長から、Samuel Ullmanの詩「You're a Gift from God」が贈られた。学歌「新鮮な旅人」を全員で歌い、式は幕を閉じた。

元気で優しい1年生になります。幼稚園では、3月19日に修了証書授与式が奥田メモリアルホールで行われた。保育修了園児はゆり組34人、あやめ組35人の計69人。吉備千枝園長から園児一人ひとりに証書が手渡されると、舞台中央に立ち、「警察官になって悪い人を捕まえたんです」「魔法使いになって空を飛びたいです」など、自分の夢を大きな声で述べた。園長は、園児たちの姿に生きる力を与えられ感謝しているという守口キャンパスの学生のエピソードを語り、「皆さんも苦しいこと悲しいこといっぱいあるかもしれませんが、ありがたい気持ちをお忘れず、立派な大人になって下さいね」と語りかけた。

生きた学問、 社会で実証

守口キャンパスでは、3月16日に女子大卒業証書・学位記授与式が、3月17日には短大卒業証書授与式が行われた。女子大は人間科学部336人(社コミ79人、国コミ82人、人健76人、スポ行99人)が卒業。短大は481人(家政122人、幼教179人、国文180人)が卒業。晴れ着姿で奥田メモリアルホールが埋まった。女子大では、学科代表の劉 颯さん(社コミ)、野口昌子さん(人健)、長谷節子さん(国コミ)、舛見法子さん(スポ行)に、金子学長から証書を授与。

代表 藤本佳七子さん(人健)が、大学生活半ばで男女共学となった思い出を語った。また、短大の式では、各学科の代表として小野川 円さん(家政)、佐藤友香里さん(幼教)(写真上)、小西日奈子さん(国文)に奥田吾朗学長から証書が手渡された。奥田学長は、「自分の知識や技術を生かすために人の気持ちを理解することが必要となる。そのためには、人々や自身の心の声に耳を傾けて下さい」と言葉を贈った。卒業生代表の原由美子さん(国文)が、各学科で学んだ内

容を振り返り、「つまずき、転びそうになるかもしれないが、本学で学んだことを糧とし、常に挑戦する心を忘れず、頑張つてまいります」と決意を述べた。恒例の「学園生活の思い出」スライド上映では、様々な場面が映し出され、歓声やどよめきが起こった。短大幼児教育科音楽コース1年次生のコーラスにあわせ、キャンパスイメージソング「夢が咲く木」を全員で歌い、卒業生らは教職員に見送られながらホールを後にした。

大和田高校では2月28日に奥田メモリアルホールで卒業証書授与式が行われ、212人が卒業。大和田中学では3月6日に同じく行われ33人が卒業。高校・中学共14年度に英数コースが、15年度には国際コースが共学化し、今回は、女子のみで行う最後の卒業式となった。奥田三郎校長は「これからは男女共同参画の時代。女性の優位性を生かして主体的に考え行動して下さい。皆さんが、自分を大切に、人に感動を与えられる魅力のある人」に、成長されるように」と言葉を贈った。

高校は、校長からクラス代表 榎田 梓さん(A)、清本時枝さん(B)、中川栄香さん(C)、田中杏奈さん(D)、小野真梨さん(E)、福山恭未さん(F)に証書が渡された。在校生代表送辞を2年日組倉田貴之さんが述べ、卒業生答辞はD組の日高慧子さんが体育祭や修学旅行などの思い出、勉強とクラブ両立を果たした自信などを胸に、試験こそ自分自身を鍛え、向上させてくれる大きなチャンス」と在校生にメッセージを伝えた。

一方、中学では、在校生代表送辞を2年1組粕谷菜々さんが述べ、卒業生答辞は2組の川西梓さんが3年間の経験を通して「一生の宝」と語り、また、卒業後、12日から全員がオーストラリア海外研修に出発することになり、初代の女神像と変わらぬ生徒をはじめ、近隣の皆様のシンボルとして親しまれる事を願っています。(学園総務課 辻本多紀)

常に挑戦する心を忘れずに

女子大では、学科代表の劉 颯さん(社コミ)、野口昌子さん(人健)、長谷節子さん(国コミ)、舛見法子さん(スポ行)に、金子学長から証書を授与。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

無限大の未来に進む

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

女子のみで行う最後の卒業式送辞があげられた。

